

平成23年3月31日

新宿区長 様

法人名 NPO法人 市民の芸術活動推進委員会
所在地 新宿区四谷4-20
(フリガナ)
代表者氏名 理事長 鈴木 弘之

事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第19条の規定により、下記の通り報告いたします。

記

1 助成対象事業

事業名	手で見るギャラリー鑑賞教室事業
実施日時又は期間	平成22年6月15日～23年3月31日
対象者の範囲及び人数	小学校児童及び中学校生徒 並びに一般市民
事業内容	小学校及び中学校の児童生徒を対象とした図工・美術科の鑑賞教育の一環として、美術家の制作した作品を手で触って鑑賞し、質感や立体感を味わう体験的な鑑賞教室である。なお、一般市民にも開放し、訪問者にはギャラリートークなどを実施する。
具体的活動状況	鑑賞教室のための企画委員を法人内より選定し、鑑賞教室のための鑑賞カードやパンフレットを作成し、受入れ体制を調えた。このような体制を調えたにも関わらず、来訪した学校は1校のみとなった。そのため、出張教室として活動方針を転換し、年度末までに4校へ出張美術館を実施した。 なお、ギャラリーランプ坂（貸し画廊）への参観者は年間1,000名を越えており、臨機に事務局で対応し、ギャラリートークも実施した。
事業の成果	参加校が合計5校と当初計画より大幅にダウンしてしまった。しかし、実際に触って鑑賞した児童の感想文を検証すると、大多数の児童に感動したとの感想が寄せられている。また、体験を期に、家族で実際にギャラリーフレンドへ行きたいとのコメントもある。従って、この活動を継続することで、手で見るギャラリーの鑑賞活動が定着することを期待している。

2 助成対象事業費内訳（実績）

※内訳は、できるだけ「単価×数量」で示して下さい。

※ 1万円以上のものについては、必ず領収書（写し可）を添付して下さい。（1回の支払金額が1万円に満たない場合でも、同一支払先に1万円以上支払っている場合は領収書の提出が必要となります。）

収入	経費	積算根拠（内訳）		金額
	団体負担金			603,262円
	参加費・資料代等	収蔵作品集売上げ@500円×1		500円
	その他の収入	協賛金2社@50,000+@60,000		110,000円
	協働推進基金助成金	助成金交付額 500,000円		
計				1,213,762円
支出（助成の対象になる事業費の内訳）	費目	予算額	内訳	
	会議費	404,957円	会場使用料（図工室）@3,000×1回=3,000円、会議資料コピー代40円×20枚・8×133・消費税93円=1,957円、ギャラリーフレンド使用料共益費240,000円÷6部屋=40,000円×10ヶ月=400,000円	
	宣伝費	40,704円	チラシ印刷費15,504円（1,000枚）チラシ制作費16,800円 ポスター制作費8,400円（100枚）	
	リース費	0円		
	消耗品費	18,941円	ラベルライターリボン1,680円、プリンターインキ7,030円、ラベル7,340円、デッサン額2,891円	
	謝礼	0円		
	人件費	160,000円	内部講師@1,000円×4時間×3名=12,000円、内部講師@1,000円×3時間×2名=6,000円、鑑賞教室準備作業@1,000円×2時間×5名=10,000円 鑑賞教室準備作業@1,000円×4時間×3名=12,000円 ギャラリートーク@1,000円×3時間×40日=120,000円	
	材料費	69,213円	ラワンベニヤ@2,250×1=2,250円、しなベニヤ@2,780×1=2,780円 ラワン材@6,500×4=26,000円（以上消費税1,551円）、タックペーパー780円、タイルカーペット@298×70枚=20,860円、ラミネートフィルム@278×2袋=556円、フェルト2,936円、スポットライト電球11,500円	
	交通費	15,900円	会議交通費660円+540円+1,060円=2,260円 講師交通費@660×2名+@760×2名=2,840円 ギャラリートーク旅費@270×40回=10,800円	
	その他諸経費	144,527円	鑑賞カード制作費6,300円、鑑賞カード印刷費19,430円、カタログ制作費27,300円、カタログ印刷費48,590円、タイルカーペット搬送費1,575円 報告書23,000円、民芸品購入5,800円、民芸品購入4,532円 出前授業作品搬送@2,000×4回=8,000円	
助成対象事業費（小計）	854,242円			

余剰金	72,879 円	
助成対象外事業	359,520 円	作品購入 辻はる子作品 42,000 円、 戸棚改修工事 317,520 円
事業総額		1,213,762円

3 助成事業の成果と課題

評価のポイント	自己評価
事業を計画した当初に決めた目標について、どこまで達成できたか。	視覚障害者への対応として、床にカーペットを敷いたり、点字名札を作成（社会福祉協議会の推薦により、ボランティアの方に点字を打っていただいた）など、おおよその内部改修を終了することができた。後は定期的に来館いただくことである。
地域にどのような効果があったか、又今後見込まれる効果は何か。	地域への広報などを展開し、ハンズオンギャラリーの存在については周知ができたように思う。今後一層の周知を図り、来館者の増員をしていきたい。
費用対効果は適性であったか。	当初予定の改修については、一部を除いて改修が完了し、視覚障害者が利用する際に支障がなくなった。また、点字名札を作製し、ハンズオンギャラリーとして一般化出来る内容となり、費用対効果は極めて適性であった。
新たに気づいた課題・問題点は何か。また、どのような対策が考えられるか。	当初より、鑑賞教室についての困難であることについて、ご指摘を戴いていたが、その通りの結果となった。その原因のひとつは既に小学校全校に対して、東郷青児美術館への見学が要請され実施している現状から、この活動以外に新たに鑑賞教室のために校外学習としての時間確保が難しいことが判明した。そのため、来館校は1校に止まった。そのため、年度後半には出前形式に方法を変更した、次年度は四谷地区は来館、それ以外は出前方式に変更しての取組としたい。
理解者や支援者が広がったか。	画廊への来館者の3割の方が手で見るギャラリーに訪れ、ハンズオンの体験をしている。その方々の口コミによって徐々に来館者が増えている。
事務局の執行体制は十分だったか。	ホームページやチラシ作成等の広報活動を展開したが、もっと多角的な広報活動が必要であるが、人材の点でやや困難でもある。
今回の事業を次年度以降も継続していく場合、助成金だけに依存せず、今後も安定的に事業を継続するための財源確保等に向けた取り組みはされていたか。	3部屋ある貸し画廊（ランプ坂ギャラリー）の稼働率が暫増している。そのため、施設使用料支払い以外にも本事業への資金を流入するメドがおおよそ確保できた（22年度）。従って、23年度も貸し画廊の稼働率アップを図りたい。
その他	区教育委員会並びに区校長会等への働き掛けを行い、後援名義使用の許可をいただいたり、各校へのチラシ配布等の配慮をいただいたが、実際には各校の図工専科教諭の決断（必要性も含めて）が最重要であり、次年度は具体的な図工専科への働き掛けをして行きたい。

4 活動の成果

来館校 1 校、出前参加校 4 校と実際に参加した児童はおよそ 200 名程であったが、実際に手で見る鑑賞を体験した児童からは、体験後の感想を判読すると、貴重な体験をしていることが分かる。これらの感想からも、これからも継続して、多くの児童生徒に手で見る鑑賞を体験してもらうことが大切であると思われる。

感想文や体験活動の実際は別添する。